

日本／ユネスコパートナーシップ事業
ESD 日本ユース・コンファレンス開催報告

(主催：文部科学省、日本ユネスコ国内委員会、五井平和財団)

～ユース・プラットフォーム構築に向けて～

1. 経緯

開催年月	行事名	期間	
2014/02	第1回 ESD 日本ユース・コンファレンス※	1日	
2014/10	ESD に関するユネスコ世界会議	事前オンライン・ディスカッション	1.5ヶ月
2014/11	「ユネスコ ESD ユース・コンファレンス」	コンファレンス	2日
2015/09		事前オンライン・ディスカッション	1ヶ月
2015/10	第2回 ESD 日本ユース・コンファレンス※	コンファレンス	2日
2016/01		プラットフォーム会合	1日

2. 第1回・第2回コンファレンスの概要

開催回	目的	プログラム内容
第1回	世界会議に向けた ESD の普及・促進	・ ESD に関する認識の共有と学び合い ・ 世界会議の代表選出
第2回	ユース世代が、意見や情報の交換・発信、協働できるプラットフォームの構築	・ 協働プロジェクトの企画と実行 ・ プラットフォーム構築の検討 ・ 参加者主催のワークショップ開催

3. これまでの成果

- (1) ユース主体の協働プロジェクトが始動
- (2) 自主的にワークショップなどを行える、キーパーソンの発掘
- (3) Facebook や LINE、ウェブサイトなど、オンライン・プラットフォームの形成
- (4) ESD 実践者の見える化や全国各地での交流会開催など、オフラインの繋がり強化

4. 今後のビジョン

- (1) 多様な分野のユースが繋がり、同志を見つけられる場
- (2) ユネスコ活動を通じて、お互いの尊重や繋がりを感じられる「心の拠り所」となる場
- (3) ESD 実践者との勉強会やワークショップ開催など、生きた ESD を学べる場
- (4) ACCU や日ユ協、ESD-J、大学ユネスコクラブなど、ESD 推進団体との連携
- (5) 産官学民の連携を推進し、政策提言ができる場

5. 必要なサポート

- (1) ユース・プラットフォームの状況把握と、物心両面でのサポート
- (2) ユース・コンファレンスの定期的な開催など、イベントや学びの場の提供
- (3) 産官学民、他のステークホルダーや世界ユースとの橋渡し、など

ESD 日本ユース・プラットフォームのプロジェクト紹介

ESD 日本ユース・コンファレンスから生まれた、各プロジェクト概要の紹介と、一部プロジェクトの実績として、「ESD つながりマップ」と「ESD シンクタンク」の資料を紹介します。

No.	プロジェクト名	プロジェクト概要	進捗状況
1	ESD つながりマップ (プラットフォームづくり)	ユースのエンパワメントとチャンスの提供。ユースが力を発揮できる環境づくりが「インパクトのある重要なものだ」と多世代に伝えるツールの提供。	定期的な Skype 会議で、協業することの難しさ面白さを感じ、「シンプルプラン」を計画し実行中。実際のマップを作成した (別紙参照)。
2	ESD シンクタンク実践者あたま☆スッキー	ESD の課題を集約し分析することで、解決のための提案・発信をしていく。政策提言や知識連携を目指す。	参加者アンケートを取り、ESD で困難に感じることを分析し結果を具体的に報告した (別紙参照)。
3	おらが町 みんなでつくっぺし	産学官が連携して、子どもたちが地域づくりの担い手となる学習機会を創出。子どもたちが ESD 実践者に。	産学官の連携に関して、学校と企業との連携について成功事例と失敗事例を調査した。
4	ESD ユース情報局	持続可能なネットワーク作りをする。オンラインとオフラインの両方を重要視。	Facebook グループページや LINE でのネットワーク作りを実践中。支部会や同窓会を実施した。
5	日本人と日本にいる外国人が一緒になって地域で Global な学びの場をつくる	Global Online Course を活用し、日本の ESD 事例を世界に紹介。グローバルな学びの場作り。	具体的な、アクションプランを立てた。
6	勝手に表彰事務局	誰でもほめられると嬉しいもの。勝手に表彰し自然発生する人のつながりを期待。	神戸市の西村川魚店代表取締役の西村さんを表彰。つながりマップや ESD ユース情報局 Facebook に掲載していく。
7	ESD コーディネーター育成	ESD コーディネーターが、各地で学校の ESD 活動に企業や NPO をつなげ、コンソーシアムを作る。	ESD コーディネーターへのインタビューや調査をしていく。
8	学びの市場♪	多様性を認め合いながら、それぞれの持ち味を活かして、みんなにとって意味のある学び合いの場をつくる。	プラットフォーム会合後に、ピア・ラーニング・ワークショップを主催した。
9	ESD×教科教育	子どもたちが日々受ける授業での学びを大切に、学校の授業教科内で ESD を実践し、その質を高める。	それぞれの現場で、学びの場をつくってきた。「学びの市場♪」ワークショップで ESD 授業体験を開催した。

ESD Youth MAP

<東日本編>

2015年10月に開催された「第2回ESDユース・コンファレンス」参加者のマップです！

青山 真弓 (東京都)
非常勤講師 (文教大)



秋山 莉菜 (東京都)
教諭 (駒東国際高等学校)



飯塚 綾子 (東京都)
講師 (都内公立小学校)



小畑 怜美 (東京都)
NPO法人カタリバ



福田 あつ美 (群馬県)
学生 (群馬県立女子大学)



及川 いずみ (東京都)
学生 (東京芸芸大学教職大学院)



加藤 杏咲 (東京都)
学生 (慶應義塾大学法学部)



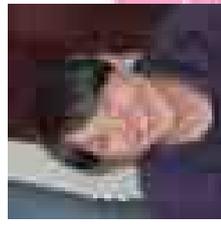
坂田 弥優 (東京都)
All Japan Youth Eco-club



遠藤 舞偉子 (富山県)
教諭 (高岡市立成美小学校)



篠田 真穂 (東京都)
学生 (早稲田大学大学院)



瀬川 美華 (東京都)
国際難民高等研修所駐日事務所インターン 学生 (東京農工大学大学院)



Chia Mu Kai Dennis (東京都)
学生 (東京大学大学院)



長嶋 里恵 (東京都)
学生 (上智大学総合人間科学部)



福島 宏希 (東京都)
United Youth 代表



石川 郁香 (千葉県)
日本ユネスコ協会連盟理事



白井 龍馬 (神奈川県)
教諭 (横浜女学院中学校高等学校)



竹田 響 (神奈川県)
学生 (中央大学総合政策学部)



星久美子 (神奈川県)
NPO法人開発教育協会 / DEAR



秋葉 利緒 (神奈川県)
学生 (横浜市立大学国際総合科学部)



熊坂 真輝 (神奈川県)
NPO法人ハンガー・フリー・ワールド



菅原 淳史 (宮城県)
教諭 (宮城県多賀城高等学校)



戸村 夢帆 (宮城県)
学生 (東北大学教育学部)



大河内 洋介 (埼玉県)
「たまらぼ」代表



松倉 紗野香 (埼玉県)
教諭 (上尾市立東中学校)



徳武 雅也 (茨城県)
学生 (筑波大学)



笹川 貴吏子 (茨城県)
学生 (立教大学大学院)



ESD Youth MAP <西日本編>

2015年10月に開催された「第2回ESDユース・コンファレンス」参加者のマップです！

古次 恵美 (福岡県)
非常勤講師 (北九州市立大学)



内藤 崇 (福岡県)
中外製薬株式会社



平原 菜南子 (福岡県)
学生 (西南学院大学文学部)



梯 愛子 (福岡県)
PLAY FUKUOKA



吉本 光平 (福岡県)
教諭 (福岡県立武蔵台高等学校)



野中 光 (沖縄県)
Enactus JAPAN



與儀 滝太 (沖縄県)
沖縄県立名護青少年の家



窪田 勉 (兵庫県)
教諭 (兵庫県立兵庫高等学校)



中尾 有里 (大阪府)
NPO 法人 眞面こどもの森学園



高原 麗奈 (大阪府)
NPO 法人 眞面こどもの森学園 学生 (奈良教育大学エネスコクラブ)



後藤田 洋介 (大阪府)
学生 (奈良教育大学エネスコクラブ)



大野 さゆり (京都府)
BRIDGE Institute



松岡 竜太 (京都府)
教諭 (京都市立紫野高等学校)



新友 一郎 (兵庫県)
教諭 (兵庫県立加古川東高等学校)



野村 佳世 (岐阜県)
教諭 (大垣市立上石津中学校)



内藤 圭祐 (愛知県)
教諭 (名古屋国際中学校・高等学校)



中島 江梨香 (愛知県)
研究員 (中部大学分子細胞研究センター)



中野 直実 (鹿児島県)
学生 (鹿児島大学教育学部)



杉川 幸太 (広島県)
助教 (広島大学大学院工学研究科)



流尾 正亮 (岡山県)
岡山市役所 ESD 推進課



大森 美幸 (岡山県)
岡山市立公民館



川田 晃 (岡山県)
学生 (岡山大学教育学部)



横字 史年 (愛知県)
学生 (東京大学教養学部)



分析を踏まえ、具体的な議論テーマの提案！！

資金

3. 資金源

モニタリング

2. 行動の変容を深掘する

結束力・団結力

1. より良いプログラム作り
事業ブラッシュアップ

継続性・コミットメント

構造

認知・認識

今後のシンクタンクの役割

- シンクタンク
 - 産学官民のESDの取組みやESDとなり得る仕組みを抽出する。
 - 各セクターがアクセスできる知識タンク
 - 成果をまとめ、政策提言ができる仕組みを整える。

